



## 麻しん(はしか)・風しんの予防接種を受けましょう！

～国の経過措置での対象は最終年度です～

記憶に新しいかと思いますが、平成19年に首都圏を中心に麻しんが大流行しました。多く発生したのは10～20代の若い世代で、高校・大学などでは休校が相次ぎ、社会問題になりました。

実はこの1年前から、麻しん・風しん混合の定期予防接種は、1期(1歳児)に加え、2期(小学校就学前の1年)にも行うようになっていましたが、国は、この大流行を受け対策を強化。平成20年から、感染症の発生およびまん延を防止することを目的とする届け出の対象に、麻しんと風しんを追加しました。また社会問題となった流行年代の対策も図りました。経過措置として、平成20年4月からの5年間限定で、1回接種であった年代が2回目の接種を行えるよう、3期(中学1年生)と4期(高

校3年生相当年)を接種対象にしました。接種率も95%以上の目標値を設定しました。

本年度は、その経過措置の最終年度ですが、全国的に3期と4期の接種が低率で問題化しています。旭市でも個別通知にて接種の勧奨を3回まで実施しているのですが、目標値に達しません。平成22年度の接種率の県内順位がありますが、旭市は県内の54市町村中、3期で45位(88.8%)、4期で18位(82.8%)です。全国でも千葉県は3期で17位、4期で44位となっています。

麻しん排除対策の強化などで、全国 of 患者報告数は平成20年の11,005人に比べ、平成23年では434人と激減していますが、安心してはいけません。麻しんは、春先から夏に流行し、強力な感染力(空気感染)で、かかると治すための特別な治療法はありません。また肺炎や脳炎などの合併症を起こし、死亡することもあります。

大学入学、部活動などでの大会参加、また医療や教育関係への就職時に2回の予防接種が求められてきています。予防接種の対象になる人は、接種の重要性を理解し忘れずに受けましょう。

【健康管理課看護師】